

# 報 告 書

開催日時	平成27年11月 5日 ( 木 ) 午後 6時53分 ~ 午後 8時55分	
開催場所	陸前高田商工会 2階 会議室	
出席議員	挨拶 班長 福田 利 喜	
	司会進行	畠 山 恵美子
	報告者	菅 原 悟
	記録者	菅 野 定
	議 員	藤 倉 泰 治 ( 欠席：清 水 幸 男 )
参加人数	青年部12名 商工会2名 一般2名 中野議員 合計17名	
主な要望・提言等	<p>開会前に出席者が自己紹介 午後6時53分 開 会  市議会議員：福田委員長、畠山副委員長、菅原、藤倉、菅野  商工会青年部：米澤部長、菅原副部長、小島（小島電化）、阿部（鶴亀鮪）、地域振興部会長 柴田（ダイニング柴田）、菅野（菅野商会）、柴田（柴田建設）、松野、副部会長 菅野、菅野（菅久）、小林（小林電設）、他1名  議会事務局：戸羽局長  一般傍聴：2名、中野議員</p> <p>進行：畠 山 恵美子（総務常任委員会副委員長）</p> <p>1 開会あいさつ 班長 福田 利 喜（総務常任委員会委員長）  2 議会報告 班員 菅 原 悟  資料に基づき、H26決算について説明。</p> <p>3 質 疑 応 答</p> <p>Q) 長部の復興に関する災害公営住宅についてお聞きしたい。  A) 水上の災害公営住宅は、現在21世帯中7割程度の入居。その他の完成予定は、1年半後で長部13戸、今泉61戸の規模になる見込み。</p> <p>Q) 災害公営住宅について、実状満室にはならないと聞くが、最終的にはどのような扱いになるのか。また、人口は減っていく傾向にあり、空き室が増えると懸念されるがどうか。  A) 最終的には、市営住宅になる。人口減による空き室も懸念され</p>	

<p>主な要望 ・提言等</p>	<p>るが、現在の市営住宅も老朽化していることから、今後、災害公営住宅に集約することも視野に入れている。</p> <p>Q) 消防費は、どのくらいになるのか。</p> <p>A) 10億9,800万の予算に対して、9億5,000万の執行。内訳は、消防職員の人件費や消防団に対する経費。</p> <p>4 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市庁舎の位置について、どう考えるか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 福田：災害を回避しつつ、機能面を重視すべき。</li> <li>菅原：大船渡市と同様に高台。中心市街地近辺がベスト。</li> <li>藤倉：土地代造成費用が大きいため、判断は悩ましい。</li> <li>菅野：安全な高台を前提に中心市街地にも近い場所。</li> <li>畠山：安全性と行政機能が麻痺しないことが重要。</li> </ul> </li> <li>・ 12.5mの防潮堤が出来て、浸水区域のかさ上工事が完了し、中心市街地が形成されるが、津波を被った場所と定義されるのか、それとも安全な場所であると定義されるのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 福田：震災後の県の津波シュミレーションでは、防潮堤完成後、かさ上げ工事をしない場合、旧市庁舎で6.5mの浸水高になるとされている。それより高くかさ上げになるので、浸水しないこととされている。</li> <li>藤倉：必ずしも安全とされているわけではないので、多重防災を心がけていくことは大事。</li> </ul> </li> <li>・ 窓口機能について、コンビニ発行など費用対効果はどうか。コンパクトシティを視野に入れたまちづくりも必要であり、鉄道復旧も重要と考えるがどうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 福田：鉄道復旧は必要と考えるが、JRでは、浸水区域ではないところでの復旧を想定しているため、市の負担が示されている。持続可能なBRTとの関連も考慮が必要と考える。</li> <li>畠山：経済、教育文化面で必要性を訴えて行くことが重要。</li> <li>菅原：社長が変わり方針も変わった。鉄道復旧は厳しい。</li> <li>藤倉：議会としても鉄道復旧で要望している。JRは、民間企業だが、社会的責任を果たす義務もあると考える。</li> <li>菅野：鉄道復旧は、将来的にも必要。</li> </ul> </li> <li>・ 高台の住宅では高齢化が進み、市街地に買い物に来るためにBRTやオンデマンドバスなど交通手段に関する予算の確保についての協議いただきたい。</li> </ul>
----------------------	---

主 な 要 望  
・ 提 言 等

- ・(福田) 商売をする上で、まちづくり会社(仮称)を作って、ある程度インフラ整備するとか、振興策はないか伺いたい。
- 商工会とすれば、そういうものは必要と考える。昔でいう観光案内所的なものも必要。被災者に対しての支援策、補助金はあるけど、税法上流失した証明がないと対象とならなかったりする。議会も含めて行政と話し合いながら、まちづくりを進めて行く必要があると考えます。
- 週末の休みとなれば、盛岡イオンに行ったりするのが現状なので、若い人が陸前高田の地元で服を買うとか食材を買うとか、まちぐるみで物流を作ればと思う。経営者と自治体とのつながりが強くなることを望む。
- 市役所に市民が気軽に行けて、職員と話ができるスペースがあったらと思う。
- 中学生が1万円で起業するといった企画があるのを知って、本来であれば我々がやらなければと悔しい思いをした。
- 震災後に立ち上がったNPOが数多くある。今後の位置付け、行き先がどのように扱われていくものか。市街地のテナントに組み込んで活性化を図ることは考えられないか。
- 防災集団移転、公営住宅の割合は、人口に対してどうなのか。空き室、空き区画が出てくると思われるがどうか。
- 若者の職場となる企業誘致を望む。人口が減り、見通しも立たない状況だが、高齢者しかいないまちになってしまうと客もいなくなって、商売も成り立たなくなる。陸前高田市をPRして若者をいっぱい連れてくるようにしないと本当にダメなまちになってしまう。
- もっと市街地に街灯を取り付けて欲しい。
- 中小機構で建てた仮設の事業所は、現段階では稼働から5年経過すると立ち退きの必要性が出てくる。買い取り、本設、解体と選択が迫られるが、費用負担が非常に大きい。本設するにも場所がないので、現在の場所で営業したい。どうにかならないものか。
- 仮設店舗の使用延長と解体費用の無料期間の延長を望む。
- 市街地への移転は自分の責任で土地を与えられるのではないので、何らかの配慮をお願いしたい。
- 新規創業の飲食業で、求人を出しているが来ない。若い世代を取り込もうと考えているが、難しい現状。若い世代に魅力

<p>主 な 要 望 ・ 提 言 等</p>	<p>あるまちづくりをしていく必要があり、行政とのタイアップはどうか。</p> <p>→ どんなに大きくて立派な施設を作ったとしても、人が居なければ意味をなさない。陸前高田市に住む、移住することで特典があるとか、人口を増やす手立てを考えられないものか。</p> <p>→ 祈念公園ですが、遊具とかないので子どもが遊ぶスペースがないのではないか。先日、江刺中央体育館付近の公園に行ったが、300人程の子どもが遊んでいた。そういった子どもたちが集まる、雨の日でも遊べる場所を商店街のそばに作れば、親は子ども中心に動くことから、マーケット的にも必要じゃないかと考えるがどうか。</p> <p>→ 中心市街地のイメージがさまざまあると思います。高田東中学校校舎は、プロポーザル方式において設計等決められているが、地元業者ではなく東京の業者だったりする。果たして、まちづくりのイメージ、将来像にマッチするものなのか。そして、それらの経費、今後の維持費はこれからを担う子どもたちの負担にならないものか。工期短縮と低コストに努めて欲しい。</p> <p>→ 商工会青年部とはなにか、こういった活動をしているんだということを10分間にわたる動画でユーチューブなどで紹介されています。是非ご覧いただきたい。</p> <p>→ 次回、第2弾の意見交換をお願いしたい。</p> <p>4 閉会あいさつ 班長 福 田 利 喜 午後8時55分 閉 会</p>
----------------------------	--

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 藤 倉 泰 治 様

平成27年11月25日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成27年議会報告会 総務班

班 長 福 田 利 喜 ㊞